

10

月10日

息子が誕生。パパになる



■喜びいっぱいの電話報告

朝9時半、待ちわびていた携帯が鳴った。神戸から駆けつけて、新宿の病院でカミさんに付き添っている義母からだった。

「いま、陣痛が始まったさかい、はようおいで」

家にも落ち着かないので出社したものの、気が気ではなかった。病院に着いたのが11時。すでにカミさんは分娩室に入った後だった。ソファに座ったり立ったり、廊下を行ったり来たり、うろろう、そわそわ。傍らで義母があきれて笑っている。

「心配せんかて、大丈夫やから」

小一時間が過ぎたころだっただろうか、分娩室のドアが開いた。

「おめでとうございます。元気な男の子ですよ」

看護師さんに抱かれて、猿みたいに真っ赤な顔をした赤ん坊が、火の



ついたように泣き声を上げている。なんてちっちゃいんだ。

「ほら、パパに抱っこしてもらおうね」

腕に渡された瞬間、いまままでに味わったことのない喜びがこみ上げてきた。カミさんの手を握ってねぎらうと、カミさんは優しい顔で微笑みを返した。

ひと段落して、仙台の両親、嫁いた妹、続いて上司に電話をした。そ
うだ、灘の自動車整備工場の社長の奥さんにも伝えなくては…。「生まれ
れたらすぐに知らせて」と、昨日、電話があったばかり。首を長くして
待つてくれているはずだ。